



さだ公民館だより

令和7年3月19日 108号 編集・発行 佐田地区公民館 電話：44-0312

第34回米神山巨石祭が終了した

3月9日（日）10時
 厳かに巨石祭神事始まる
 清らかな浦安の舞
 迫力のある院内童龍太鼓
 分かりやすく丁寧な説明
 佐田小キッズガイド
 祝賀もちまき
 必死に拾う姿笑えました
 おにぎりを片手に
 米神山登山
 昨年より大勢の方が
 チャレンジしました
 天気も良く見晴抜群
 気分爽快でした
 みんなありがとう！



俳句教室

令和七年二月 第四〇四号

佐田句会 二月十八日 佐田公民館 七名

兼題 春浅し 水温む 葱坊主

松本公節 選評

○ お隣の一畝みごと葱坊主 征子

(評) 私は、実は「葱坊主」になったことが、良いことなのか、ダメなことなのか、定まっていない。この句は佳い写生となっている。

○ 浅春の淡き影おく庭の木々 二三華

(評) 「浅春」と「淡き影」の取り合わせが絶妙。

○ 葱坊主頭巾が少し見えてきし 美佐子

(評) 丁寧な写生句で、白い「頭巾」で締まった佳い句に。

○ 竹林の大ゆれ小ゆれ春浅し まさ子

(評) さりげない句だが、「春浅し」とよく響き合っている。

○ 春浅き木々に棚引く風の声 彰裕

(評) 茫洋として、雰囲気のある句だが、「風の声」が佳い。

○ 制服の孫は黙して浅き春 義彦

(評) 「孫」の句は一割安だが、この句は思春期の始まり予感と単なるテレとの「黙して」で緩みのない佳い句になりました。

選者吟 ルアー振る子等の歓声水温む

次回佐田句会は

三月十八日佐田公民館

兼題は 彼岸 春眠 さくら



今年も佐田の「ひな飾り」大盛況でした!!

佐田下の 大隈通比古邸で

2月26日から3月5日(午前10時から午後3時)の日程で
チーム「うさぎ娘」が中心となり飾りつけから会場案内まで多岐にわたり活動しました
段飾り・吊るし雛・うさぎ・着物等数多くの展示

いつも静かな 佐田の町も この期間は賑やかになり活気にあふれていました
来場者も多く 10,000人を超えていたのではないかと思うくらいの人出でした
(来場者数は 盛っています すいません)

佐田の町を盛り上げてくれて ありがとうございます そして お疲れさまでした
来年の開催も ワクワクしながら待ってます



お知らせ

大分の情報雑誌、月間「セーノ」取材に来ました。

(女性2名)

佐田神社にある反射炉の展示施設・耐火レンガを
再利用して作った塀・佐田神社の境内等の取材で
安倍公民館長が対応してくれました。

大分県内の、いろんな情報を掲載している月刊
雑誌です。

4月1日発売予定、皆さんも観てください。



お知らせ
斉藤茂さん(矢崎)から、亡母
のお礼として、佐田地区公民館に
金一封を頂きました。
ありがとうございます。

佐田公民館だよりQRコード
スマホからカラーで閲覧できます。



【心にひびく ことば】 井村和清

井村医師は若い頃、悪性腫瘍のため右足を切断
して三十二歳の若さで亡くなりました。死の直前
に「あたりまえ」という詩を作りました。

あたりまえ

こんなすばらしいことを、みんなはなぜよろこ
ばないのでしょ う あたりまえであることを

お父さんがいる お母さんがいる 手が二本あ
って 足が二本ある 行きたいところへ自分で
歩いていける 手をのばせばなんでもとれる
音が聞こえて声が出るこんなしあわせあるでし
ようか しかし、だれもそれをよろこばない
あたりまえだ と笑ってすます

食事がたべられる 夜になるとちゃんと眠れ、
そしてまた朝がくる 空気を胸いっぱいにする
笑える、泣ける、叫ぶことができる 走り
まわれる みんなあたりまえのこと こんなす
ばらしいことをみんな決してよろこばない

そのありがたさを 知っているのは、それを失
くした人たちだけ なぜでしょう あたりまえ